農 技 第１８０５号
令和８年 11 月４日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和８年度病害虫発生予察防除情報 第７号を発表します。

ハスモンヨトウについて、フェロモントラップでの誘殺数が平年より多く推移し、農作物への被害も確認されています。今後の気温は高く推移すると予想されており、11 月以降も被害が発生する恐れがあります。圃(ほ)場における発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

令和８年度病害虫発生予察防除情報 第７号
ハスモンヨトウの発生状況と防除対策について

１　対象作物　野菜類、花き類

２　病害虫名　ハスモンヨトウ

３　発生地域　県中部、県南部

４　発生状況について

（１）フェロモントラップにおける、直近１か月（９月６半旬～10 月５半旬）の合計誘殺数は、加西市では 2,137 頭（過去 10 年平均：1,053 頭）、南あわじ市では、3,070 頭（過去 10 年平均：880 頭）と、過去 10 年平均に比べて多い（図）。

（２）10 月下旬に実施した予察圃場調査において、ねぎ（加西市）での幼虫の寄生株率は 32.0%（過去 10 年平均 0.8%）、キャベツ（南あわじ市）での幼虫の寄生株率は 4.0%（過去５年平均 3.7%）、レタス（南あわじ市）での幼虫の寄生株率は 24.0%（過去５年平均 12.8%）と、過去平均に比べて高い。

（３）10 月下旬に実施した淡路地域の野菜圃場巡回調査において、キャベツ圃場では幼虫の発生圃場率が 62.5%（過去４年平均：41.9%）、レタス圃場では 25.0%（過去４年平均：10.0%）と過去平均に比べて高い。

５　今後の予想

気象庁の近畿地方の１か月予報（10 月 29 日発表）によると、向こう１か月の気温は高く推移すると予想され、ハスモンヨトウの活動に好適な条件が続くと考えられる。近年、秋期も気温が高く推移する傾向にあり、11 月以降も引き続き圃場で幼虫が発生し、被害が長期化することが懸念される。

６　防除上の留意点

（１）本種は広食性で、加害作物は、キャベツ、レタス、はくさい等の野菜類から、カーネーション、きく等の花き類、豆類と広範囲におよぶ（写真１、２）。

（２）ハスモンヨトウの卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ（写真３）、孵化直後の幼虫は集団で加害して（写真４、５）、カスリ状の食害痕を残す（写真６）。卵塊や分散する前の若齢幼虫の早期発見に努め、発生を認めた場合には速やかに防除を行う。

（３）中・老齢幼虫には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。本種は、全国的に薬剤抵抗性の発達事例が報告されており、本県でも一部の薬剤で殺虫効果が低い事例を認めているため、薬剤散布後も防除効果の確認に努める。

（４）防除薬剤については、農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に選定し、農薬使用基準を守る。<u>特に、臨機に追加防除を行う際には、薬剤のラベルや説明書、各圃場の防除履歴を十分確認し、薬剤使用回数の上限を超過しないよう注意する。</u>

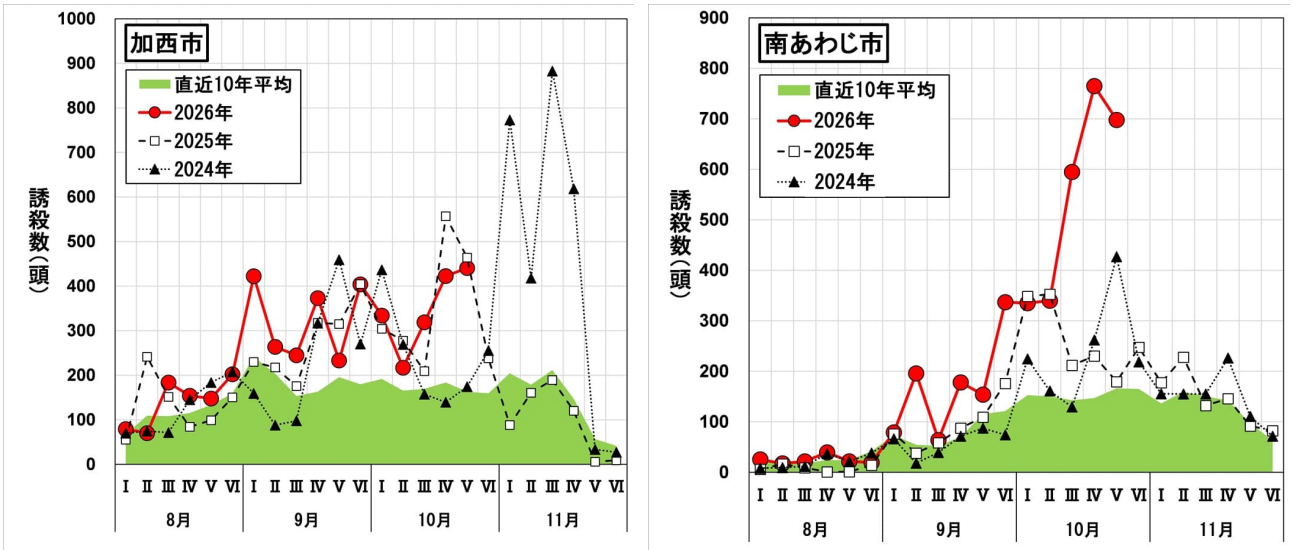


図　フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移



写真１　キャベツを加害するハスモンヨトウ幼虫



写真２　レタスを加害するハスモンヨトウ幼虫



写真３　ハスモンヨトウの卵塊



写真４　孵化直後のハスモンヨトウ幼虫



写真５　キャベツ葉を集団で加害する幼虫



写真６　キャベツの被害葉

＊この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。
https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp
＊農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載
https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo
＊兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html

問い合わせ先　兵庫県病害虫防除所　０７９０－４７－１２２２

「兵庫県病害虫防除所」Ｘ(旧Twitter)にて情報発信中。
フォローお願いします。
Ｘアカウント（https://x.com/hyogo_boujosho）